

# 1 欧米列強の侵略と条約改正

めあて：欧米列強の侵略と日本の条約改正はどのように進められたのか？

## ●列強と帝国主義

【1. **帝国主義**】：19世紀後半、資本主義諸国が**軍事力**を背景にして、アジアやアフリカに**原料**の入手先と**製品**の輸出先を求めただけでなく、**資本**そのものを投下して経済的に自由な活動を行い、相手国の経済を握って植民地や勢力範囲を広げた動きのこと。

Q.このような動きの中、日本はどうする？

国を強くする、整える、仲間として認めてもらう。

## ●【2. **条約改正**】の実現

1858年：不平等条約＝関税自主権がない・領事裁判権を認める

不平等条約改正への過程	
<b>岩倉具視</b> (1872年～)	・岩倉使節団が条約改正の交渉に向かうも準備不足で失敗 ⇒近代化政策を推し進める
寺島宗則 (1878年～)	・アメリカは関税自主権の回復で合意するが、イギリスなどが反対 Q.なぜ？＝ <u>取引の多い日本との貿易の利益が減るから</u>
井上馨 (1882年～)	・【3. <b>欧化政策</b> 】(例：鹿鳴館で舞踏会を開く)を採る ・1886年： <b>ノルマントン号事件</b> が起こる⇒条約改正の世論が高まる
大隈重信 (1888年～)	・領事裁判権の撤廃の代わりに、外国人を裁く裁判に外国人の裁判官を参加させる条件が出されたため、国内で猛反発⇒失脚 ・1889年： <b>大日本帝国憲法</b> の発布
青木周蔵	・領事裁判権の撤廃をイギリスと成立させかけるが、天津事件により辞任
【4. <b>陸奥宗光</b> 】 (1894年)	・日英通商航海条約を結ぶ ⇒領事裁判権の撤廃(他の国々とも)、関税自主権の一部回復 Q.なぜ？＝ <u>ロシアのアジア進出を警戒して日本に歩み寄ったから</u>
【5. <b>小村寿太郎</b> 】 (1911年)	・関税自主権の完全な回復を実現する ＝欧米諸国とのすべての条約改正が終了